

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標2\_健康・福祉】

施策 2-1\_健康づくりと医療体制の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04247_01	骨髄バンクドナー支援補助金
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04251_01	健康プログラム事業
2-01-01	地域と一体となった健康づくりの推進	04263_01	健康政策企画調整費
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04017_03	予防接種事業
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04017_04	予防接種費用助成費補助金
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04203_03	健康相談
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04203_04	がん検診等
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04203_06	人間ドック
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04225_01	精神保健推進事業
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04234_01	食育推進事業
2-01-02	こころと体の健康づくりの推進	04271_01	移動デジタル福祉サービス推進事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04013_01	救急医療体制運営事業委託
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04013_02	休日夜間急患センター管理事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04013_04	休日夜間急患センター運営補助
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04070_01	大島診療所維持管理事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04070_02	大島診療所運営補助
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04173_01	別子山診療所維持管理事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04173_02	別子山診療所運営補助
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04242_01	新居浜市医師確保奨学金貸付事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04255_01	新居浜市歯科衛生士確保奨学金貸付事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04257_01	地域医療対策強化事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04268_01	産科医等確保支援事業補助金
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04269_01	救急医療施設広域運営事業
2-01-03	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	04284_01	地域医療医師確保奨学金負担金

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	04247_01	
事業名(行目名称)		骨髄バンクドナー支援費		細事業名	骨髄バンクドナー支援補助金		
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	健康づくりと医療体制の充実		
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進		担当課	健康政策課		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	113,050人		
	手段(どうやって)	市内に住所を有し、公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業においてドナー登録している者のうち、骨髄等の提供をした者に、1回につき 100,000円 骨髄等を提供した者が従事している事業所に、1人につき 50,000円					
	目的(どんな状態にしたいのか)	骨髄または末梢血幹細胞を提供する者に対して、助成金を交付することにより、ドナーの経済的負担を軽減し、骨髄の移植の推進及びドナー登録の増加を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース  ○負担金補助及び交付金 300千円	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	300	300	0		
財源	県・国支出金	0	150	150	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	150	150	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
骨髄等を提供した者		目標値	3	3	1	2	2
		実績	1	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
骨髄または末梢血幹細胞を提供する者に対して助成金を交付する事業であるため、提供者が出現して初めて事業を実施できる。行政としては今後とも骨髄バンクの重要性を広く市民に啓発し、骨髄移植等の継続的な実現を図るために今後も事業を推進していく必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
骨髄等移植事業は、国及び県が推進している事業であり、血液疾患患者のために重要な事業である。年間を通しての提供件数が想定できないため、現状維持の方向で予算措置を取っておく必要がある。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
本年度はドナーによる提供はなかったが、血液疾患患者のためには重要な事業であり、今後も市民への啓発を行い事業を継続する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	04251_01		
事業名(行目名称)		健康プログラム事業費		健康プログラム事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉		健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進		担当課 健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民			数値	114,886人		
	手段(どうやって)	健康アプリを活用し、ウォーキングの歩数に対するインセンティブとして、あかがねポイントを付与することにより、運動の継続性、健康意識の向上に繋げる。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民の健康寿命の延伸を目指すとともに、市民の健康意識の向上を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		19,596	8,503	8,503	7,581			
財源	県・国支出金	15,400	0	0	0	○需用費 10千円 ○委託料 5,544千円 ○負担金補助及び交付金 2,949千円		
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	100			
	一般財源	4,196	8,503	8,503	7,481			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
健康アプリ登録者数			目標値	0.65	2999	4000	5000	6000
			実績	0.64	3054	3703	4496	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する					
昨年度に引続き、インセンティブとしてあかがねポイントを付与することで、登録者数の増加や運動の継続性及び健康意識の向上に繋げようとしてきた。月間のウォーキングイベントでは、更にボーナスポイントを付与することで、ウォーキングに対するインセンティブとして一定の効果がみられる。しかし、登録者数の増加が徐々に緩やかになりつつあるため、登録のきっかけとしては効果が薄れて来ている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
ウォーキングの歩数に対するインセンティブとして、あかがねポイントを付与することにより、歩数の増加や健康意識の向上などの効果が得られている。令和7年度はより多くの市民の健康づくり活動を促進するために、登録者数を6,000人に拡大したい。令和7年度においては、令和6年度予算と同額程度で対応可能であるが、アプリの認知度を高めるため及び登録の促進のため、無関心層に関心を持ってもらえるよう啓発グッズが必要と考えられる。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)		B:事業の進め方の改善検討				
令和6年度は、無関心層を取り込むため、健康づくりとは無関係のイベントへのブース出展(登録支援等)や、SNSを活用しての周知を行ったが、目標値までは届かなかった。限られた財源で更なる利用者の拡大及び市民の健康意識向上に向け、事業の進め方等改善していく必要がある。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04263_01			
事業名(行目名称)		健康政策企画調整費	細事業名	健康政策企画調整費				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	地域と一体となった健康づくりの推進	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	113,315人			
	手段(どうやって)	KDB(国保データベース)システムを活用し、市の健康課題を調査分析し、市内の各種健康関連事業の連携・調整及び必要な新規事業の企画を行う。 また、75歳以上高齢者の保健事業については、市において地域支援事業等と一体的に実施するための必要な調整を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民協働による健康都市づくりを推進し、健康寿命の延伸を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		299	583	583	470	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旅費 70千円</li> <li>○需用費 588千円</li> <li>○役員費 21千円</li> <li>○使用料及び賃借料 172千円</li> <li>○負担金補助及び交付金 26千円</li> </ul>		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	299	583	583	470			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
健康寿命:男性 (KDBシステムより算出)			目標値	79.2	79.3	79.4	79.4	79.5
			実績	79.2	79.3	79.5	79.5	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>令和5年度に健康づくり推進本部を設置し、市内の関係課所と連携しながら健康づくりに取組んでおり、今年度からの3か年計画で、睡眠・栄養・運動の生活習慣の改善を重点的に推進している。また、今年度は市の健康増進計画「第2次元気プラン新居浜21」の計画期間が最終年度となり、評価および次期計画の策定に向けて、課題等を見直している。</p> <p>高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施では、国保世代からの切れ目ない支援を目指し、関係課所との密な情報共有を意識し、国保データベース(KDB)システムを活用し、支援対象者を抽出しているが、支援方法や内容を再度検討していく必要がある。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
<p>3か年計画で生活習慣の改善を重点的に推進しており、様々な機会を活用してライフステージに応じた効果的な周知啓発をするため、適した教材が必要となる。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施において、KDBシステムでの分析が必須となっているが、令和7年度に機器類やウイルスソフト等が新しくなるため、予算要望が拡大する。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	B:事業の進め方の改善検討					
<p>健康づくり推進本部として、睡眠習慣の改善を目指し、統一したチラシを作成し、各種イベント時や関係団体等に配布した。継続的に評価を行う必要がある。市の健康増進計画及び食育推進計画、自殺対策計画を一本化した「第3次元気プラン新居浜21」を策定するにあたり、第2次元気プラン新居浜21の評価では、「栄養・食生活」「身体活動・運動」の分野において悪化している割合が高く、課題であることが分かった。次年度は、睡眠習慣の改善に加え、食事習慣の改善に取り組む。</p> <p>高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施においては、KDBシステム関係の予算要求が認められなかったため、事業の進め方について関係機関で再度検討をする必要がある。</p>								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04017_03	
事業名(行目名称)		感染症等予防費	細事業名	予防接種事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実		
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	乳幼児、児童、生徒、高齢者		数値	45,158人	
	手段(どうやって)	予防接種法に基づきA類疾病、B類疾病ともに県内、市内の医療機関に委託し個別接種を実施する。A類疾病の定期接種は、予防接種手帳を生後2か月前に個人通知するとともに、未接種者には個別通知等接種勧奨を行う。B類疾病の高齢者肺炎球菌予防接種は、誤接種にならないよう対象者に接種券を個別通知を行う。予防接種率の向上と感染症予防のため学校等を通じての啓発や市政だより、ホームページ、出前講座等で正しい知識と情報の提供に努める。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	予防接種を実施することにより、感染症の蔓延を防ぐ。				
III 投入費用						
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		321,536	366,933	497,413	397,856	○報酬 4,006千円 ○職員手当等 1,020千円 ○共済費 850千円 ○報償費 45千円 ○旅費 101千円 ○需用費 134,887千円 ○役務費 2,901千円 ○委託料 222,842千円 ○負担金補助及び交付金 281千円
財源	県・国支出金	2,318	2,700	4,159	2,349	
	地方債		0	0		
	その他	0	0	93,790	35,898	
	一般財源	319,218	364,233	399,464	359,609	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度
予防接種率(二種混合)		目標値	85	85	85	85
		実績	63.9	67.8	31.4	74.3
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			
<p>予防接種法に基づき、伝染や感染の恐れがあるA類及びB類疾病の蔓延を防止するため、予防接種を実施している。乳幼児・学童を対象としたA類予防接種については、未接種者の個別通知等接種勧奨を行い、接種率の向上に努めている。HPVワクチン接種率向上を目的として、令和6年度末で接種期限を迎えるキャッチアップ接種者等を対象に、市医師会と連携し集団接種を実施している。令和6年度からB類定期接種に位置づけられた新型コロナワクチン接種については、6月補正予算可決後、事業の円滑な推進のための体制整備に努めている。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
<p>予防接種を実施することにより、伝染や感染の恐れがあるA類及びB類疾病の蔓延を防止している。子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種、成人の風しん抗体検査及び風しん予防接種については、令和6年度末で終了するため、周知の徹底を図り接種率の向上に努める。</p>						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>A類疾病、B類疾病定期予防接種の円滑な推進に努めた結果、二種混合ワクチンの接種率は昨年、一昨年より向上したほか、感染症の蔓延防止につながった。</p>						

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04017_04		
事業名(行目名称)		感染症等予防費	細事業名	予防接種費用助成費補助金			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	県外で予防接種を受ける新居浜市民で、予防接種費用助成の申請者 県外で予防接種を受けるB類定期予防接種対象者で、予防接種費用助成の申請者		数値	60人		
	手段(どうやって)	愛媛県外でA類定期予防接種、B類定期予防接種を受ける市民を対象に、当該費用の一部を助成する。また特別な理由により、一度受けた定期接種で獲得した免疫を失い、その予防効果が期待できないと医師に判断され、任意で再接種する場合に費用を助成する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	子育て世代や高齢者の経済的負担の軽減を図り、子どもの健康保持、感染症の発生および蔓延を予防する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 1,456千円	
経費		1,914	1,456	1,456	1,430		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,914	1,456	1,456	1,430		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
県外予防接種補助金交付者数(実人数)		目標値	20	20	20	20	20
		実績	12	26	29	26	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過生じた課題等		事業の方向					
<p>母親の里帰り出産や進学等のため、県外の医療機関で定期予防接種を受けた方や、治療等により予防接種で獲得した免疫を失った方が任意で再接種するための費用の一部を助成することにより、経済的負担の軽減と伝染病の蔓延予防につながるため、継続実施が必要な事業である。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>里帰り出産等のため、県内の委託医療機関以外の医療機関で自己負担により定期予防接種を受けた方の接種費用の一部を助成することにより、経済的負担を軽減し、定期予防接種の接種率向上に有効であったため、引き続き事業を継続して実施する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>県外で定期予防接種を受ける場合や任意で再接種した市民等の予防接種費用の一部を助成することにより、経済的負担を軽減し、また、感染症の発生および蔓延予防に寄与した。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04203_03		
事業名(行目名称)		健康増進対策費	細事業名	健康相談			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	40歳以上の市民		数値	73,817人		
	手段(どうやって)	保健師・管理栄養士・歯科衛生士等の専門職による生活習慣病予防のための健康教育・健康相談を実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	生活習慣病予防等について、正しい知識の普及を図り自らの健康は自らが守るという認識と自覚を高め、壮年期からの健康の保持・増進に資する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		3,035	3,123	3,123	3,000	○報酬 1,694千円 ○職員手当等 512千円 ○共済費 353千円 ○旅費 109千円 ○需用費 391千円 ○役務費 8千円 ○使用料及び賃借料 56千円	
財源	県・国支出金	582	1,074	1,074	666		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,453	2,049	2,049	2,334		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
健康教育・健康相談実施人数		目標値	6000	6000	6000	6000	6000
		実績	8068	9340	2999	9501	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>体組成計とカゴメ社製のベジチェックを保健センターに常設し、市民がいつでも気軽に健康相談ができる体制を整備した。集団健診や乳児健診の待合時にもベジチェックを実施し、減塩等の市民の健康意識の向上を図っている。また、協会けんぽと連携し、働き世代へのアプローチとして企業での健康相談や栄養セミナーを実施する予定となっているが、参加企業の選定が課題となっている。その他、市内小中学校や高校文化祭に出向き健康相談を実施し、児童生徒や保護者等の若い世代への健康づくりを推進した。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>新居浜市の健康課題解決に向けて、生活習慣病グループや協会けんぽと連携し、効果的な健康相談を実施する。保健センターでの健康相談は、体組成計やベジチェックを常設し、市民が気軽に利用できる場として啓発を行う。県や協会けんぽ等と連携し、若い世代や働き世代へのアプローチとして企業における健康相談、健康教育や学校と連携した健康づくりを引き続き行う。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>新居浜市の健康課題である高血圧予防の普及啓発を目的として生活習慣病グループや協会けんぽなどの関係機関と連携し、働き世代への企業チャレンジや中学生及びその保護者に向けた健康教育を実施した。また、塩分チェックシートを活用し、より効果的な健康相談の実施につながった。その他小・中・高等学校での出前講座や、集団健診及び乳児健診においてベジチェックを活用した健康相談を併設し、各世代へ向けた生活習慣改善や高血圧予防に関する周知啓発ができた。来年度も継続して、学校や職域、関係機関と連携した健康相談、健康教育を実施し、健康寿命の延伸を目指して、生涯を通じた健康づくりを推進する。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04203_04		
事業名(行目名称)		健康増進対策費	細事業名	がん検診等			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	40歳以上の市民、子宮頸がん検診は20歳以上の女性		数値	83,850人		
	手段(どうやって)	健診団体に業務委託し各種がん検診を実施する。総合健診として、各種がん検診、特定健診等を同時に実施できるように集団健診日程を設定する。また、休日検診の回数増設や託児機能の設置等、市民の利便性を考慮する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	がん等の生活習慣病やその危険因子を早期に発見し、適切な保健指導や早期治療に結びつけることにより生活習慣病等を予防する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		85,389	89,197	68,766	58,969	<ul style="list-style-type: none"> <li>○報酬 3,073千円</li> <li>○職員手当等 1,146千円</li> <li>○共済費 449千円</li> <li>○旅費 51千円</li> <li>○需用費 762千円</li> <li>○役務費 3,685千円</li> <li>○委託料 80,019千円</li> <li>○使用料及び賃借料 12千円</li> </ul>	
財源	県・国支出金	1,326	4,037	4,037	1,382		
	地方債		0	0			
	その他	1	1	1	1		
	一般財源	84,062	85,159	64,728	57,586		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
集団けんしん受診者数		目標値	8000	8000	4000	8000	8000
		実績	8214	7808	2678	6542	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>昨年度より受診者数は減少しているが、今年度より自己負担金を徴収し始めた事による影響と思われる。自分の健康は自分で守るという健康意識の向上のため、がんの早期発見・早期治療の必要性を周知啓発し、電話勧奨を行うなど健診受診者の確保に努める。節目年齢でのハガキ勧奨や公共施設への集団健診カレンダーやポスターの掲示、イオンにおける市の情報発信ブースなどを活用するなど引き続き周知啓発を実施する。WEB予約システムの導入が3年目を迎え、若い世代だけでなく壮年期におけるWEB予約利用が増加傾向にある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>健康寿命の延伸、がんにおける死亡者の減少を図るため、安全・安心に受診できる体制を整え、引き続き事業を実施する。周知啓発先を拡大し、新規受診者やリピーターの確保に努める。受診できる検診項目の追加を検討し、幅広い視点で健康意識向上を図る。また、生活保護世帯・非課税世帯の検診費用の負担軽減を図るとともに幅広い市民が受診できるよう体制整備を行う。精密検査対象者に対しては、個別通知や電話勧奨を行い、精密検査受診率の向上を図る。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	B:事業の進め方の改善検討				
<p>令和6年度より各種がん検診の自己負担金が有料となり、受診者が減少した。自治会回覧やLINE等での周知や、節目年齢や過去受診歴に応じた個別受診勧奨、市役所・図書館ロビー展等を活用したがんの正しい知識の普及啓発を行ったことで前年度比16%減にとどまった。次年度は、今年度実施した周知啓発に加え、自治会会長や公民館等のサークル活動、市内事業所等に出向き、がん検診の重要性について周知啓発を行い、口コミによる受診者数の増加を目指す。また、精密検査受診率向上のため、精密検査の重要性の周知や、精密検査未受診者に対する受診勧奨を継続して行っていく。</p>							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04203_06		
事業名(行目名称)		健康増進対策費	細事業名	人間ドック			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	40歳以上の新居浜市民(国保・後期高齢者医療被保険者、その他の保険加入者のうち健診を受ける機会がない人)		数値	73,817人		
	手段(どうやって)	新居浜市医師会へ委託して実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	循環器疾患及びがん等について、早期発見・早期治療のみならず適切な事後指導を実施し市民の健康づくりに役立てる。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 8,304千円	
経費		7,718	8,304	8,304	7,371		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
一般財源		7,718	8,304	8,304	7,371		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
受診者数		目標値	300	300	150	300	300
		実績	276	299	135	296	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
令和6年9月上旬時点で、12月までの予約が埋まっており、受診希望者が多い。市民の健康管理に役立っている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
今年度同様の人数で新居浜市医師会に委託し実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
健康増進法に基づき、40歳以上かつ健診を受ける機会がない市民を対象に、生活習慣病やがん等の早期発見のための総合的な健診を実施し、受診者数はほぼ定数に達している。市民の需要は高く、継続して事業を実施する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	04225_01		
事業名(行目名称)		精神保健推進費		細事業名 精神保健推進事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策 健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進		担当課 健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民			数値	98,901人		
	手段(どうやって)	①ロビー展示や健康教育を通して、心の健康づくりに関する正しい知識の普及啓発を行う。 ②こころの健康相談など専門家による相談の場を設ける。 ③地域での見守り体制を充実させるため、ゲートキーパー養成を行う。 ④精神障がい者家族教室を開催し当事者家族のサポートを行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	メンタルヘルスに関する正しい知識の普及啓発や相談支援体制の充実により、市民のこころの健康の保持増進や自殺予防につなげる。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		1,377	1,691	1,691	1,420	報酬 779千円 共済費 130千円 報償費 230千円 旅費 83千円 需要費 187千円 役務費 5千円 使用料及び賃借料 5千円		
財源	県・国支出金	634	827	827	570			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	743	864	864	850			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
こころの健康教育・相談の参加者数			目標値	350	600	300	600	600
			実績	559	539		603	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
中学生向けに作成したサポートブックについては、今年度は全校配布のみとし、次年度以降でサポートブックを活用した出前講座を実施する方向で検討する。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
医師や臨床心理士によるこころの相談事業やメンタルヘルス出前講座等、こころの健康づくりに関するニーズは高まっており、事業の継続が必要である。精神疾患に対する間違った社会通念を払拭すること、自殺や自殺関連事象に対する正しい知識を普及啓発するために幅広く講演会を実施する。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
精神保健推進事業の全ての計画は地域福祉課が主体となり計画を行った。事業ごとに保健センターと地域福祉課が分担をして事業を実施したが、連携・確認に時間がかかることがあり、効率的に事業を展開できなかった。また精神保健の市民からの相談、各関係機関からの相談をどこで受け付けるのか等、市民や関係機関からみて分かりづらい体制となっていることが課題である。高校3年生向けの独立立ちサポートブック、中学生向けのSOSのこころサポートブックについては、印刷製本ではない方法を検討する必要がある。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04234_01		
事業名(行目名称)		食育推進事業費	細事業名	食育推進事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民	数値	113,466人			
	手段(どうやって)	栄養士、保健師、食生活改善推進員による健康教育・健康相談やバランス食に関する講義及び調理実習を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	食育に関する正しい知識の普及啓発を行うことにより、市民一人一人が生涯を通じて望ましい食習慣を形成し、健全な食生活を送り、生活習慣病予防や健康寿命の延伸を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース ○報酬 74千円 ○報償費 1,076千円 ○需用費 1,184千円 ○役員費 6千円	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,068	2,340	2,340	2,040		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	2,068	2,340	2,340	2,040		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
幼児食育事業参加者数		目標値	850	800	350	700	
		実績	725	740	373	713	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>新居浜市の食育推進を担うボランティア団体の食生活改善推進員が高齢化し、次世代の食育の担い手が不足している。また、若い世代の女性のやせと男性の肥満、朝食の欠食、壮年期のメタボリックシンドローム、高齢期の低栄養など、ライフステージに応じたきめ細やかな対応が必要である。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>新居浜市の健康課題である高血圧予防や壮年期男性の肥満の解消等の為、生活習慣病グループや食生活改善推進員協議会と連携し、市民全体の減塩や野菜摂取量の増加を促進する。また、次世代の食育推進を担う食育ボランティアを育成するため、若い世代への食育料理教室を実施する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>食に関する正しい知識や調理技術の伝達、次世代の食育ボランティアの育成を目的として、親と子の料理教室や若い世代を対象とした食育料理教室を実施した。また高血圧や糖尿病等の生活習慣病予防のため、関係機関等と連携してローソルト&amp;ベジプロジェクトの推進を図った。健康寿命の延伸を目指して、生涯を通じた健康づくりや食育を推進するために、次年度も継続して事業を実施する。</p>							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	04271_01
事業名(行目名称)		移動デジタル福祉サービス推進事業費		細事業名	移動デジタル福祉サービス推進事業	
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	健康づくりと医療体制の充実	
	基本計画	こころと体の健康づくりの推進		担当課	健康政策課	
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民			数値	利用件数
	手段(どうやって)	マルチタスク車両を導入し、山間部や離島地域をはじめ、市内のあらゆる公共交通不便地域に市民が必要とする保健・医療サービスを届ける。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	デジタル技術を活用した保健指導等を実施し、健康寿命の延伸を図る。				
III 投入費用						
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		4,096	2,960	2,960	2,142	○需用費 388千円 ○役務費 121千円 ○委託料 951千円 ○備品購入費 1,500千円
財源	県・国支出金	2,248	750	750	575	
	地方債		0	0		
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	1,848	2,210	2,210	1,567	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度
保健相談の利用件数			目標値	50	50	100
			実績	20	168	67
令和7年度						
—						
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
<p>専門職の確保、車両を活用する事業の固定化など、活用の定着を目指していく。 活用に関する関係者の理解促進とデジタル技術活用、操作手順の取得を目指していく。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	縮小			
<p>事業に必要な備品や医療機器の購入は完了しているため、車両の維持管理及び運行管理業務等のランニングコストのみ今後も必要となる。</p>						
VI 事後評価						
成果		総合評価(令和6年度)		B:事業の進め方の改善検討		
<p>地域のスーパー、コンビニ等を巡回し、市民の生活動線上で健康相談を実施した他、健康づくりに関するイベントで相談の機会を提供した。健康づくりに関連する課所に協力を依頼し、専門職の派遣を依頼することで、円滑に健康相談を実施することができた。今後は、健康相談以外の車両の利用方法の検討や、医療機器の購入やクラウドの導入を行ったことでオンライン診療が実施できる車両環境は整ったため、オンライン診療実施に向けて、関係団体との協議を行っていく。</p>						

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04013_01			
事業名(行目名称)		救急医療体制整備費	細事業名	救急医療体制運営事業委託				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	114,886人			
	手段(どうやって)	外科の休日在宅当番医制の運営を新居浜市医師会に委託し、休日における一次救急医療の体制を確保するとともに、救急医療の適正受診について市民に周知・啓発を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市における休日一次救急医療体制の維持確保を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		4,208	4,180	4,180	4,235	○委託料 4,180千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	4,208	4,180	4,180	4,235			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
外科当番医診療人数			目標値	800	800	800	800	800
			実績	878	756	475	815	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
休日における一次救急医療を提供し、市民の安全・安心な生活に繋げると共に、救急医療の適正受診の周知・啓発に努める。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
在宅当番医制により、日曜、祝日の外科の診療を行っている。今後も実施していく。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
顕在化している出務医師不足等の問題はありますが、在宅外科当番医制運営事業を継続して実施し、休日における一次救急医療体制を確保する必要がある。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	04013_02	
事業名(行目名称)		救急医療体制整備費		細事業名	休日夜間急患センター管理事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	健康づくりと医療体制の充実		
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保		担当課	健康政策課		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民			数値	114,886人	
	手段(どうやって)	新居浜市医師会と協議しながら、休日夜間急患センター施設の維持管理及び運営の調整を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市における一次救急医療体制の確保を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,522	1,743	1,743	355	○需用費 265千円 ○役務費 5千円 ○委託料 183千円 ○使用料及び賃借料 1,290千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	1,522	1,743	1,743	355		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
施設整備			目標値	1	1	1	1
			実績	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
休日夜間急患センターが老朽化していることに伴い、適正な維持管理が必要となる。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
一次救急である休日夜間急患センターを維持し、適正に管理することで、市民の安心安全を確保する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
市民の安心安全のため、一次救急である休日夜間急患センターを適正に管理し、救急診療業務を継続する必要がある。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04013_04			
事業名(行目名称)		救急医療体制整備費	細事業名	休日夜間急患センター運営補助				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	114,886人			
	手段(どうやって)	新居浜市医師会が運営する休日夜間急患センターの運営費用を補助し、休日夜間の一次救急体制を確保するとともに、救急医療の適正受診について市民に周知・啓発を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市における休日夜間救急医療体制の維持確保を目指す。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		76,891	70,000	103,000	86,905	○負担金補助及び交付金 70,000千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	76,891	70,000	103,000	86,905			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
休日夜間急患センター診療日			目標値	365	366	183	365	365
			実績	365	366	183	365	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
休日・夜間における一次救急を提供し、市民の安心安全な生活に繋げると共に、救急医療の適正受診の周知・啓発に努める。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
救急医療体制整備のため、今後も運営費用に係る赤字分を補助する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
市民の安心安全な生活を確保するため、休日夜間急患センター事業を継続して実施していく必要がある。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04070_01	
事業名(行目名称)		大島診療所管理費	細事業名	大島診療所維持管理事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実		
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	大島地区住民	数値	155人		
	手段(どうやって)	大島地区住民の健康管理のため、新居浜市医師会が開設する大島診療所を適正に管理する。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	大島地区住民の健康管理のため、診療所の維持管理を適正に行い、大島地区における診療体制を確保する。				
III 投入費用						
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)		令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		376	506	506	310	
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債		0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	376	506	506	310	
○需用費 187千円 ○役員費 44千円 ○委託料 275千円						
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度
施設数		目標値	1	1	1	1
		実績	1	1	1	—
V 事中評価						
評価視点	妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等	事業の方向	現状のまま維持する				
大島地区の地域医療の拠点であり、診療業務を円滑に実施するため適正管理を行う必要がある。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)	予算の方向	現状維持				
離島における市民の健康管理のために必要不可欠な医療施設であるため、引き続き、維持管理が必要である。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
大島地区住民の健康管理のため、開設している大島診療所において、診療業務が円滑に実施できるように診療所の維持管理を適正に行う必要がある。						

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04070_02		
事業名(行目名称)		大島診療所管理費	細事業名	大島診療所運営補助			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	大島地区住民	数値	155人			
	手段(どうやって)	新居浜市医師会が運営する大島診療所の運営費用を補助し、大島地区における診療体制を確保する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	大島地区住民の地域医療の確保と健康を守る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 6,840千円	
経費		6,081	6,840	6,840	4,534		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	6,081	6,840	6,840	4,534		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
診療日		目標値	51	50	25	50	35
		実績	52	44	17	35	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
島民の減少及び高齢化により診療所は赤字ではあるが、健康管理に重要な医療施設であるため維持は必要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
島民の健康管理のため、新居浜市医師会が開設する大島診療所は不可欠である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		B:事業の進め方の改善検討				
地域医療の拠点を維持するため、地域住民の減少等による診療所の赤字分を補助金として補填することにより、新居浜市医師会による大島診療所の運営を維持する必要がある。しかし、受診者数が減少傾向にあるため、診療日数等の見直しなど検討の必要があると思われる。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04173_01		
事業名(行目名称)		別子山診療所管理費	細事業名	別子山診療所維持管理事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区住民		数値	113人		
	手段(どうやって)	別子山地区住民の健康管理のため、新居浜市医師会が開設する別子山診療所を適正に管理する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区の住民の健康管理に努め、地域医療・保健サービスの拠点とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		33	36	36	33	○役員費 36千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	33	36	36	33		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
施設数		目標値	1	1	1	1	1
		実績	1	1	1	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
別子山地区の地域医療の拠点であり、診療業務を円滑に実施するため適正管理を行う必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地区における市民の健康管理のために必要不可欠な医療施設であるため、引き続き、維持管理が必要である。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
別子山地区の地域医療の拠点であり、診療業務を円滑に実施するため適正管理を行う必要がある。							

令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2024	04173_02		
事業名(行目名称)		別子山診療所管理費		細事業名	別子山診療所運営補助			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保		担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区住民			数値	113人		
	手段(どうやって)	新居浜市医師会が運営する別子山診療所の運営費用を補助し、別子山地区における診療体制を確保する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区の住民の健康管理に努め、地域医療・保健サービスの拠点とする。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 7,810千円		
経費		7,534	7,810	7,810	6,628			
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	4,000	4,000	4,000	4,000			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	3,534	3,810	3,810	2,628			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
診療日			目標値	47	50	25	50	50
			実績	47	50	25	48	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
別子山地区の人口減少及び高齢化により診療所は赤字ではあるが、健康管理に重要な医療施設であるため維持は必要である。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
別子山地区の健康管理のため、新居浜市医師会が開設する別子山診療所は不可欠である。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和6年度)		B:事業の進め方の改善検討					
地域医療の拠点を維持するため、地域住民の減少等による診療所の赤字分を補助金として補填することにより、新居浜市医師会による診療所の運営を維持する必要がある。しかし、受診者数の減少傾向を鑑み、診療日数の見直し等の検討は必要。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04242_01		
事業名(行目名称)		新居浜市医師確保奨学金貸付事業費	細事業名	新居浜市医師確保奨学金貸付事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	奨学金貸付申込者		数値	1人/年		
	手段(どうやって)	市内の医療機関で働く意志のある医学部生に入学又は修学に要する資金を貸し付け、一定の期間、市内の医療機関で勤務することにより奨学金の返還を免除する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内の医療機関で勤務する若い医師を確保する。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		14,682	12,500	12,500	7,800	○貸付金 12,500千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	14,682	12,500	12,500	7,800		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
新規貸付人数			目標値	1	1	1	1
			実績	0	2	0	1
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
募集人員1名に対し、一次受付を6月30日、2次受付を9月30日としているが、申請はない。引き続き募集を継続する。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
医師の高齢化及び医師不足の解消のため、引き続き毎年1名の奨学生を確保するための予算を維持する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
1名の申請があり、新規の貸付けを1件行い、貸与累計人数は7人となった。将来的な医師確保のため、今後も計画的に事業を進める。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04255_01		
事業名(行目名称)		新居浜市歯科衛生士確保奨学金貸付事業費	細事業名	新居浜市歯科衛生士確保奨学金貸付事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	修学資金貸付申込者		数値	5人/年		
	手段(どうやって)	市内の歯科衛生士の養成施設に在学する方に、修学資金を貸し付け、一定の期間、市内の歯科医院で勤務することにより、資金の返還を免除する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内の歯科医院で勤務する歯科衛生士と地域医療の充実、高校卒業後の新たな選択肢として若年層の転出抑制、定住促進を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,680	2,160	2,160	1,740	○貸付金 2,160千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	60		
	一般財源	1,680	2,160	2,160	1,680		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
貸付人数			目標値	5	5	5	5
			実績	1	3	4	4
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
募集人員5名に対し応募のあった4名に新規貸し付けを開始した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
市内の歯科衛生士不足の解消と地域医療の充実を図るため、毎年5名の新規修学生の確保のための予算を維持する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
4名の応募があり、4件の新規貸し付けを決定した。歯科衛生士不足の解消のため、今後も継続して事業を実施する。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04257_01			
事業名(行目名称)		地域医療対策強化事業費	細事業名	地域医療対策強化事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	地域医療中核医療機関		数値	4			
	手段(どうやって)	新居浜市と医師会及び地域医療の中核を担う4病院(新居浜県立病院、住友別子病院、十全総合病院、愛媛労災病院)の協働により新居浜市に愛媛大学医学部の寄附講座を開設する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	将来にわたって市民が安心して医療を受けることができる地域医療提供体制の確保と医療従事者の育成の場の提供を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		24,000	50,000	50,000	50,000	○寄附金 50,000千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0				
	その他	14,000	30,000	30,000	30,000			
一般財源		10,000	20,000	20,000	20,000			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
寄附講座設置数			目標値	1	1	2	2	3
			実績	1	1	2	2	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
令和4年4月に住専操業病院をサテライトとする「難病・高齢医療学講座」を、令和6年4月に愛媛労災病院をサテライトとする「先進消化器内視鏡開発学講座」を開設した。次に住友別子病院をサテライトとする寄附講座を令和7年度開設に向け協議を進めている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大					
継続して設置する「難病・高齢医療学講座」、「先進消化器内視鏡開発学講座」及び新設する1講座のための予算を要望する。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当					
令和4年4月に十全総合病院をサテライトとする「難病・高齢医療学講座」、令和6年4月に愛媛労災病院をサテライトとする「先進消化器内視鏡開発学講座」が開設され、市民にとってより専門性の高い治療を受けることができている。住友別子病院をサテライトとする「地域脳卒中医学講座」の開設に向け準備を進め、令和7年7月に開設することとなった。今後も県立新浜病院での寄附講座開設に向けて協議を行い、地域医療体制の確保を図る。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04268_01			
事業名(行目名称)		産科医等確保支援事業費	細事業名	産科医等確保支援事業補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実				
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内分娩取扱医療機関		数値	2医院			
	手段(どうやって)	産科・産婦人科医師及び助産師に対して分娩1件あたり10,000円を上限とし、県費(国費の間接補助)1/3補助、市1/3を補助する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	産科医療機関、産科医が減少している現状を鑑み、医療従事者の確保を図るため、産科医療機関、産科医に対して財政的支援を行い、身近な地域で安心して出産できる環境を整備する。						
III 投入費用								
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 3,334千円		
経費		2,944	3,334	3,334	2,818			
財源	県・国支出金	1,472	1,666	1,666	1,409			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	1,472	1,668	1,668	1,409			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度	
産科医の分娩取扱補助件数			目標値	750	550	250	500	500
			実績	464	442	228	423	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
出生数が減少していく中で、県内全体で産科医及び助産師を支える体制を構築するために分娩手当を県とともに補助し、継続的に産科医等の維持確保を図る必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
分娩取扱件数は令和5年度と比較して僅かに増加しているため、現状維持とする。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
対象分娩数は、こにしクリニックと新谷ウィメンズクリニックの2院で423件であった。出産数の減少や医師不足の中、産科の医療体制を維持確保を図る。								

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04269_01		
事業名(行目名称)		救急医療施設広域運営事業費	細事業名	救急医療施設広域運営事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	114,886人		
	手段(どうやって)	病院群(新居浜市4病院、西条市6病院)が共同連帯して輪番制により、休日及び夜間において、初期救急医療施設から転送された入院治療等を必要とする重症救急患者の医療を実施している。新居浜市は、事業を実施する市内の医療機関に対し、運営費の一部を負担する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜・西条保健医療圏における第二次救急医療体制の確保を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 10,731千円	
経費		10,731	10,731	10,731	10,731		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	10,731	10,731	10,731	10,731		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
補助対象救急病院数		目標値	3	3	3	3	3
		実績	3	3	3	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
新居浜・西条保健医療圏における第二次救急医療体制の確保を図ることが出来ている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
第二次救急医療体制の確保を図るため、今後も継続していく必要がある。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和6年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
第二次救急医療体制の確保を図るため、今後も継続していく必要がある。							

## 令和6年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2024	04284_01		
事業名(行目名称)		地域医療医師確保奨学金負担金	細事業名	地域医療医師確保奨学金負担金			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	健康づくりと医療体制の充実			
	基本計画	救急体制の維持・強化と地域医療の確保	担当課	健康政策課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市民		数値	114886		
	手段(どうやって)	愛媛県内で勤務する医師の確保を図るため、愛媛大学との連携により医学部入学定員の増員と併せた奨学金制度が設定されている。新居浜市は配置実績に応じて、奨学金貸与額のうち生活費相当額を対象として負担金を県に支払う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市内で勤務する医師の確保し、地域医療体制の確保を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和5年度 決算額(千円)	令和6年度(千円)			令和6年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			600	600	600	○負担金補助及び交付金 600千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		600	600	600		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和4年度	令和5年度	令和6年度中間値	令和6年度	令和7年度
配置病院数			目標値	5	5	5	5
			実績	3	4	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
義務年限が終了した貸費生の配置実績の応じて件に負担金を支払った。今後事務年限が終了する貸費生が増えていくことから、負担金の増えていく。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
令和6年度末で義務年限が終了する貸費生の配置実績に応じて負担金を支払う必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和6年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
引続き義務年限を終えた貸費生の配置実績に応じて負担金を払い、市内に勤務する医師を確保する必要がある。							